

閉 会 挨拶

早稲田大学教授（商学学術院） 川 邊 信 雄



午後1時半から今まで、皆様方には大変お疲れだと思いますけれども、最後に皆様にお礼の言葉を申し上げたいと思います。

1998年に早稲田大学はジェットロと包括協定を結びました。そしてその当時の住吉理事、あるいはその後の山田理事と、具体的な協力関係についてお話をする機会がありました。早稲田のほうからは毎年インターンを海外の事務所に雇ってもらうなどいろいろなことをお願いしておりますし、またジェットロの専門家の皆様には、講師として早稲田大学で授業を担当していただく、そのような形で10年近くが過ぎました。

たまたま先日、住吉理事等々とお話をしていましたら、ジェットロが昨年度50周年を迎えたというお話でした。私は1980年ごろからアジアのほうをうろろろしてしまっていて、1986年から1987年にかけては、マレーシアのマラヤ大学に教えに行っていました。そこでジェットロの眞銅所長という方には大変お世話になりました。当時のジェットロというのは輸出、それから輸入にかわって海外投資を促進しようという時期を迎えていて、皆さん非常に活発に活躍をされていました。そのようなものを目の当たりにしましたので、その後ジェットロに対してはある意味の敬意を払っていました。そして50周年を迎えたということで、それではせっかくだから何か両者でやろうということになりまして、今回のフォーラムを催すことにしました。

そして、たまたま早稲田大学の産業経営研究所で、毎年この時期にこのようなフォーラムを開催されていますので、所長の辻山先生にお願いしまして、ぜひこのフォーラムを私たちのテーマでやっていただきたいということで、快く引き受けていただきました。大変ありがとうございました。

そして、ジェットロのほうも林理事長が全面的なバックをしてくださいました。実はいつもですと早稲田大学が全面的に費用は出すのですが、今回に限ってはジェットロと早稲田大学の折半ということで、辻山所長は大変うれしいのではないかと思います。

そしてきょうは、パネリストを勤めていただきましたジェットロの藪内先生は、海外調査部長されています。その部長さんの下にいらっしゃる眞銅課長、高橋課長、そしてもう一方は最近農村水産課に移られた山口課長の3人が、実は講師の方々をほとんどセットしていただきまして、私はただ一言お願いしますということで済んだわけです。

皆様、長い間いろいろなお話を聞かれて、日本の今の停滞あるいは衰退の原因はどこにあるのか理解されて、そしてこれからは、やはり外を見るとまだまだ成長を遂げていこうとしている国があるということがわかりいただけたと思います。

前半の基調講演では、そういった大きな流れについて説明をしていただきまして、そして後半では具体的に新興国各国について説明をしていただきました。恐らく皆様方の会社も、これからこういった新興国に打って出なくてはいけないという時代が来た、ということを確認されたと思います。

ただ一言、私の印象を言いますと、いろいろな国でいろいろなことが起こっていますが、100年前の日本、50年前の日本にあったようなことがいろいろ伺われました。例えばベトナムでは冷蔵庫が居間にある。1930年代の日本ではGEの冷蔵庫がちゃんと床の間に飾ってあったという話もあります。それから中国では、50代以上の人たちは消費に対してアレルギーがある。私たちもそういう経験をしました。私たちの世代は消費に走ろうとしましたが、私たちの父親、母親はやはり節約ということを言っていました。それから、ブラジル家電販売店が割賦販売をやっている。日本も、実はシンガーミシンが入ってきたときに、これは非常に高価だったものですから、頭金による割賦販売もできませんでした。そのために蛇の目ミシンやブラザーミシンが何をやったかといったら、頭金を積み立てる、あるいは毎月500円ずつ積み立てて、3年後娘さんがお嫁に行くときに商品をもたらう。そのようなことを工夫して日本の市場を開拓していったわけです。そして同じようなことは、1960年代から1980年代にかけての東南アジアでの市場でも見られるわけです。

そういう先人たちが大変な苦勞をして、世界で冠たる企業を築き上げた。そしてこういった経済大国を築き上げたということを、皆さんもう一度思い出していただいて、今日のお話を聞いて、これから世界に打って出ていただきたいと思います。

最後にジェトロのこれからの50年、100年のさらなる発展をお祈りしまして、私のあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。